

平成16年度

中学生海外派遣事業

～ 報告集 ～

稲美町国際交流協会

【 申込から派遣が終わるまでの日程 】

- 4月 7日 両中学校を通じて生徒（3年生）に申込書を配布
- 4月26日 申し込み締め切り日（申込者...22人）
（稲美中 男3、女7 稲美北中...男6、女6 計22名）
- 5月 3日 面接（20人）
- 5月 6日 面接予備日（2人）
- 5月21日 抽選会（8人決定）
（稲美中...男1、女4 稲美北中...男1、女2 計8人）
- 7月 4日 事前研修1
・事務局、日本旅行から旅の説明
- 7月12日 事前研修2
・ALTヒープ先生による英語研修
・出し物の決定 盆踊り（法被を着用）、歌「校歌」「故郷」
- 7月26日 事前研修3
・藤本先生（野寺）による盆踊り指導
・「校歌」「故郷」練習
・事前研修資料を読む
- 8月 9日 事前研修4
・事前研修資料を読む
・盆踊り、歌「校歌」「故郷」の練習
- 8月16日 結団式
- 事前研修5
・ALTヒープ先生による英語研修（自己紹介等）
・藤本先生（野寺）による盆踊り指導
- 8月18日～25日 オーストラリアに派遣
- 8月25日 解団式
- 9月 4日 反省会
- 9月10日 感想文等提出

平成16年度 中学生海外派遣事業プログラム

日	月日 (曜)	都市	発着	現地時刻	交通機関	日程(泊)	食事
1	8月18日 (水)	役場南側玄関 関西国際空港 関西国際空港 チャンギ空港 チャンギ空港 パース国際空港 パース市内	発着 発着 発着 発着 発着	8:30 10:00 12:00 17:35 18:50 23:45	町のバス SQ985 SQ215 専用車	関空へ 空路、シンガポールへ (荷物は預けたまま) 空路、パースへ 入国手続後、ホテルへ (ホテル泊)	機内食 機内食
2	8月19日 (木)	パース市内 パース市内 パース市内 パース市内 バンバリー市 ↓	発着 発着 発着 発着	9:00 9:15 9:15 10:00 12:30	専用車 専用車	兵庫文化交流センターへ 兵庫文化交流センター 小川所長表敬訪問 ファーガソンファームへ ファームステイ (ファームステイ)	朝 ホテル 昼 ファーム 夜 ファーム
3	8月20日 (金)	↓ バンバリー市 スワン市 スワン市 スワン市	発着 発着 発	12:30 16:00 16:00	専用車	↓ スワン市役所へ スワン市長表敬訪問 ホストファミリーと対面	朝 ファーム 昼 ファーム 夜 ホスト
4	8月21日 (土)	スワン市		14:00 17:30	ホストファミリー	Swan Districts Football Clubの試合観戦 " " の試合終了 ホストファミリーと過ごす	朝 ホスト 昼 クラブ 夜 ホスト
5	8月22日 (日)					ホストファミリーと過ごす	朝 昼 夜 ホスト
6	8月23日 (月)	スワン市		8:30 10:45 11:15 12:00 15:00 18:00	ホストファミリー ホストファミリー ホストファミリー	Governor Stirling Senior High School体験入学 校長先生とモーニングティー 盆踊り等余興 Caversham Wild Parkを訪問 学校へ戻ってきてホストファミリーと帰宅 スワン市主催歓迎レセプション・夕食会 (ホストファミリー・ホスト校関係者・市議会議員など)	朝 ホスト 昼 学校 夜 スワン市
7	8月24日 (火)	スワン市 スワン市 パース市 パース市 パース市 パース国際空港 パース国際空港 チャンギ空港	発着 発着 発着 発着 発着	8:30 9:00 10:00 10:00 13:00 13:30 16:00 21:15	ホストファミリー 専用車 専用車 SQ226	学校集合 パース市内へ向け出発 パース市内見学(買い物、動物園など) パース国際空港へ出発(QV1ビル経由) 空路、シンガポールへ (荷物は預けたまま)	朝 ホスト 昼 各自 機内食
8	8月25日 (水)	チャンギ空港 関西国際空港 関西国際空港 稲美町	発着 発着 発着	1:10 8:30 9:00 10:30 11:00	SQ986 町のバス	空路、関空へ 陸路、役場へ 解団式	機内食

生徒名簿

No	氏名	性別	年齢	中学校	年組	備考
1	いけだ なお 池田 奈央	女	14歳	稲美	3-1	
2	いのうえ ひろあき 井上 浩朗	男	14歳	稲美	3-2	
3	さとう ゆか 佐藤 友香	女	14歳	稲美	3-4	
4	ながさか ひろみ 長坂 裕美	女	15歳	稲美	3-4	
5	もりた あさみ 森田 亜沙美	女	14歳	稲美	3-4	
6	ふるかわ あすか 古川 明日香	女	14歳	稲美北	3-1	
7	おおまえ みゆき 大前 美幸	女	14歳	稲美北	3-2	
8	むらた よしあ 村田 欣吾	男	14歳	稲美北	3-5	

引率者名簿

No	氏名	性別	年齢	所属	備考
1	みのうち かつゆき 蓑内 捷之	男	62歳	稲美町国際交流協会	会長
2	みなと けん 湊 謙	男	39歳	稲美中学校	英語科 教諭

行政関係者訪問名簿

No	氏名	性別	年齢	所属	備考
1	おおにし よしじ 大西 由二	男	57歳	稲美町役場	稲美町 助役
2	ふじわら よしとも 藤原 良知	男	47歳	稲美町役場	経営政策部 企画課 副課長

旅行会社添乗員名簿

No	氏名	性別	年齢	所属	備考
1	かばざわ のりこ 樺沢 法子	女	24歳	(株)日本旅行	関西法人営業部所属

～ 8 日間の記録 ～

1日目：8月18日（水） 村田 欣吾



空港への移動中、バスの中ではみんなテンションが高くて大騒ぎでした。

空港では「デケ～」を口々に言いながら出国手続きを済ませました。パースへの直行便が無いので、シンガポールのチャンギ空港で乗換えをします。シンガポールからパースへの飛行機の中、オーストラリアのお菓子をもらってしまいました。パースに着いたのは深夜でしたが、予想していたほど寒くありませんでした。

空港からホテルまでバスで移動し、到着後、次の日に備えて早めに休みました。

2日目：8月19日（木） 佐藤 友香

朝、ホテルで食事をし、バスに乗って兵庫文化交流センターを訪問しました。ビルの25階から見えるパースの町並みは絶景でした。所長の小川さんに挨拶をし、稲美町とスワン市とのこれまでの経緯や、今回の派遣事業の意味や重要性をわかりやすく教えていただきました。

表敬訪問を終えると、ファーガソンファームへ向かいました。約2時間バスに乗っていて、日本と違う所を多く見つけました。高速道路でもないのに制限速度が110kmだったり、踏み切りを停まらなかつたり…。移動している時も多くのことを学びました。

ファームへ着くと、ジョンさんとローザさんが温かく迎えてくれました。羊の毛刈りをして、羊の特徴を教えてもらいました。夜は、キャンプファイヤーをし、言葉の壁を越えてダンスや歌、ゲームで盛り上がりました。忘れることのできない最高の思い出ができました。



3日目：8月20日（金） 井上 浩朗

3日目がやってきました。といっても、僕らは5時30分に起きて、太陽が昇るよりも先にカンガルーを探してたけど。



朝食を食べてから、ポニーに乗ったり、乳搾りをしたり、卵を取りに行ったりした。その後、散歩に出掛けました。目的はカンガルー。雨が途中でザーザー降ってきて、みんなびしょ濡れになったにもかかわらず、収穫は遠くに見える点に等しいカンガルー。雨に濡れて本当に寒い。それから、昼食を食べて、ジャム類を買って出発。農場の人は本当に優しくなな。

何時間か車で走ってスワン市へ到着。そして、ホストファミリーと対面。その後、家へ。途中で野生のカンガルーも見ました。今日も楽しかった。

4日目：8月21日（土） 長坂 裕美

Good morning!とホストファミリーのタンヤとブライアンにあいさつで今日もオーストラリアでの朝は始まりました。

今日は、ホストファミリーと2日目。上手に会話が続けるのかと不安でしたが、朝食が始まる



と不安は除かれています。この日は、私たちをキングスパークとパース動物園へ連れて行ってくれました。

パース動物園は、日本のものとは全く違い感動しました。見ることができる動物も全く違いました。動物園が広くて足がガクガクでした。

今日は、予定のフットボールの試合は見に行けませんでした。とても楽しい1日でした。

Good night!と1日終了。

5日目：8月22日（日） 大前 美幸

今日はフリータイムで、ホストファミリーと一緒に映画を見に行きました。

ファミリーのデイビーとは別れて、奈央ちゃ

んと一緒に“HELL BOY”を見ました。字幕が無くて何言っているか分からず、周りの人たちに合わせて笑ったりしました。でも、映像を見ているととても驚いたりして、横の人にしばしば笑われたり…。だけど、とっても楽しい1日でした。



日本との違いはあんまり無かったけど、普通に立ち歩いたりしゃべったりして、ちょっとうとうとうしかったです。

お昼は、スワン湖のほとりにあるお店に。カボチャスープとガーリックバターを塗ったパンは意外とおいしかったです。

6日目：8月23日（月） 池田 奈央

今日は学校見学をしました。この学校は、とにかく生徒数が多く感じました。

うらやましく思ったことは、1・2時間目が終わるとティータイムがあって、15時に授業が終わると、そのまま帰宅という学校生活。

見学が終わると、動物園へ行ってカンガルーにエサをあげたり、コアラをさわったり、ウォンバットを抱いたり、ラクダに乗ったり、貴重な経験をさせてもらいました。

夜には、スワン市が夕食会を開いてくれました。ここでも、たくさんの方が私たちを出迎えてくれました。ご飯も豪華でおいしかったです。盆踊りも楽しんでもらえて良い思い出になりました。



明日はとうとう日本へ帰らないといけないので残念です。

7日目：8月24日（火） 森田亜沙美

今日はホストファミリーとお別れです。オーストラリアに行く前は、結構長そうだと思っていたけど、とても短く感じました。ホストファミリーと別れた後、パース市内で買い物をしました。とてもかわいい店がたくさん並んでいて、

それぞれ楽しく買い物ができたと思います。

キングスパークでは、写真を撮ったり綺麗な景色で夢みたいな感じでした。途中、雨が降ってしまったけど、オーストラリアは気候が変わりやすいので、雨が上がったらずくに晴れて変な気候でした。

バスの移動の時、運転手さんのピーターさんが、行きにくれたグミがみんな“おいしい”と言ったので、同じグミをわざわざ買ってきてくれました。パースの空港でピーターさんとシノさんとはお別れです。写真も撮ったし、とても良い思い出ばかりでした。



8日目：8月25日（水） 古川明日香

シンガポールのチャンギ空港で、私たちは関空行きの飛行機の出発を待ちました。チャンギ空港の中はとても広く、夜中の12時を過ぎても店が開いていました。そして、私たちはシンガポールから関空へ向かう飛行機に乗り、眠りました。

機内での朝食は4時でした。眠たくて食べる気がしませんでした。8時40分、関空に着きました。そこで、入国の手荷物の中にビーフジャーキーを買っていた私は、アメリカ産の肉ということで回収されてしまいました。オーストラリアの肉は大丈夫なのですが、シンガポールやアメリカの肉は日本に持ち込めるといふシールがないといけないそうです。気をつけましょう。空港で添乗員のカバちゃんとお別れでした。別れは悲しいなあと思いました。

また、オーストラリアへ行きたいです。



オーストラリアで・・・

池田 奈央

あっという間に過ぎてしまった1週間。もっとオーストラリアで過ごしたかったのにという感じです。

パース空港に着いたとき、あまりにも寒かったのでびっくりしました。外の風景も日本のとは違って、海外に来たという実感がすごくありました。

2日目、ファームまでの道のりは、「あ～、よく寝た」というくらい長い道のりで、最初、馬や牛を見て“すご～い”と言っていたのに、いつの間にかそんな言葉も聞こえなくなってしまうくらいでした。

ファームステイ先に着くと、とても温かく出迎えてくれてうれしかったです。ご飯を食べた後、トラクターに乗って牛を見に行ったり、子牛にエサをあげたりして楽しく過ごせました。夜にはキャンプファイヤーをして本当に楽しかったです。

3日目、朝はファームで1番楽しみにしていたポニーに乗ることができました。また、カンガルーを見に歩いていた時の天候の変化には本当にビックリしました（雨ばかりで）。ファームの家庭とお別れするのはさみしかったです。

午後からはいよいよホームステイ。私は大前さんと同じで、1人で暮らしている方のところへホームステイをしました。

ホームステイ1日目は、朝は大前さんと散歩。午後からはフットボール観戦を15分くらいしました。すごく痛そうなスポーツで、自分は絶対やりたくないと思いました。でも、オーストラリアはフットボールが盛んで、見ている人はすごく楽しそうに観戦していました。その後、買い物をして、晩御飯にフィッシュ&チップスを食べれて嬉しかったです。

2日目、デイビーがお昼まで寝ていてびっくり。その後、大前さんと映画を見て、字幕は無かったけれど、なんとなく理解できてちょっとヤッターと思いました。驚いたことは、上映中に大きな声で笑ったり、立ち歩いたり、習慣の違いに驚きました。

4日目、とうとう最終日となってしまいました。中高等学校の見学は、すごい生徒の数でビックリ。うらやましかったのは、1・2時間目が終わるとティータイムがあって、15時までの授業ですぐ帰宅。ついつい皆で大西助役さんに頼んでしまうほどうらやましかったです。

その後、動物園へ行って、やっとカンガルーを見れました。けど、昼間なのでみんな元気がなくて残念。でも、エサはバクバク食べてました。コアラもさ



ファームの夕食 ピーターとニックと

われて、赤ちゃんも見れて興奮しまくりでした。ウォンバットも抱けてラクダにも乗れました。

夜には、スワン市が夕食会を開いてくれました。日本が好きな方もいて、話がすごく盛り上がりました。エミューとカンガルーのソーセージは結構おいしかったです。その後のケーキは欲張りすぎて食べれませんでした。みんなから「ウォ～！」などとビックリされて少し恥ずかしかったです。

その後、盆踊りをみんなで踊ってすごく盛り上がりました。はっぴも喜んでくれてうれしかったです。

最後の最後まで、たくさんの人とお話できて、いい経験になりました。

お別れの日、泣きそうになったけど、必死に我慢しました。デイビーが、私たちのために時間を使ってくれたこと、一番に考えてくれたことはとても嬉しかったです。

パース市内での買い物は楽しくて、店の人はみんな親切。もっともったいたかったです。空港では、バスの運転手のピーターさんから1人ずつグミをもらってありがたいと思いました。帰りたくないという気持ちばかり出てきてしまって、ここでも泣きそうでした。

今回、いろいろな方々にご協力をいただいて、ありがとうございました。今後、学んできたことを少しでも役立てたいと思います。



感謝を口に出すということ

井上 浩朗

この8日間、僕はものすごい数の“Thank you”や「ありがとう」を言ったと思います。それもただ言うだけではなくて、しっかりと心を込めてです。

僕は、これまで過ごしてきた約15年間で、数えるほどしか「心を込めて感謝」を口に出していませんでした。なぜ、そんな単純なことができていなかったのかよく考えてみると、第1に心を込めて感謝をするという気持ちを持つことが少なかったと思います。それは別に僕の周りの人が冷たかったりしたわけではなく、僕が感謝しなければいけないことを当たり前のこととして受け入れていたからだと思います。第2は素直になれなかったり恥ずかしがったりしたことだと思います。ですがこの8日間はそんな僕を変えてくれ、精神的に強くしてくれたと思います。

僕の当初の目的は「自分の英語力を本場で試す」ことでした。でも、この8日間で英語は試すものではないということがよくわかりました。英語はあくまでも言語であり、人と人が意思を伝え合うためのひとつの手段であり、ただの教科として存在するためにあるものではないということが今更わかりました。僕は今まで英語をただの教科としか思っていなかったように思います。学校の英語の成績が良ければ、英検で良い結果をとれば、外国の人と話を出来るのかといえばそうではありません。確かにそれは文を読む、英語を書く、英語を話す、といった切り離されたそれぞれの部分については養われます。でも、実際の会話ではそれらを全て連帯し、それらに更に相手の気持ちを理解しようとする心、積極的に会話をしようとする姿勢が大事なんだと僕は思います。もしかしたら、いま述べた2つの心の持ち方が英語を話すことで一番重要になっているかもしれません。

でも、最初はやっぱり英語で会話をすることに抵抗や恥ずかしさがあるものです。そんな時には一声、タイミングを見計らって“Thank you”と尝试してみたら良いと思います。何気ない、凄く簡素なその一声が、もしかしたら永遠の友情や付き合いに発展するかもしれません。こんな一声でも言わなかったり、言われなかったりすると、とても心に冷たく残ってしまいます。でも、言ったり、言われたりすると、お互いに何か通じるものがあると思います。それに、初対面の人には誰もが抱く「この人、僕のこと嫌いなんじゃないの？」



CAVERSHAM WILDLIFE PARKにて

というような不安も無くなり、その場も和やかになると思います。

それ以外にも、食事を頂いた後で、「美味しかったです」と一声言うのと言わないのでは作ってくれた人が僕たちに対して持つ印象は変わってきますし、作った本人は「美味しくなかったのかしら...」と、とても不安だし、心配に思うと思います。

少しのことで相手を幸せにしたり、満足感でいっぱいにしてあげたり、人と人との交流を深まらすことが出来るのは、「感謝を口に出すことだ」と思います。これは世界の何十億という人が知っていることだと思います。ホームステイに関しても、受入れしてくださったこと、いつもより早起きしていろいろな場所へ何時間もかけて連れて行ってくださったこと、いつも手抜きをせずに温かい料理を作ってくれたこと、いつも親切に接してくれたこと、常に「のどは渴いていない?」「お腹は減っていない?」と気遣ってくれたことなど、感謝しなければいけないことはたくさんあります。これはほんの一例で、僕が過ごした8日間の中ではもっとたくさんの感謝しなければいけないことがありました。

よく考えると、こういうことは僕たちの近くに、すぐ近くにあると思います。将来、世界の人と話したいと思っているのなら、身近にある感謝をしなければいけないことをみつけ、恥ずかしながら「ありがとう」というべきだと思います。それが国際交流の第一歩なのだから。

オーストラリアでの 8 日間

佐藤 友香

8月18日。この日が来るのを、オーストラリアに行けると決まった日から待っていました。朝、役場には役場の方をはじめ、学校の先生方等たくさんの方が見送りに来てくださり、改めて私たちに託された思いというのは大きいものなんだなぁと感じました。

オーストラリアでは、本当に驚きの連続でした。ものや習慣、文化が違ってするのは勿論、人の考え方も日本とは違うように感じました。

まず私が一番初めに驚いたことは、一軒の家が持っている土地の広さです。私たちが行ったパース市とスワン市の中心には高いビルがあり、会社も立ち並んでいて、広い道路を車が行き交っていました。稲美町とは比べものにならないくらい発展しているところだなぁと思いながら外を眺めていました。

けれど郊外へ行くと、さっきの光景とは打って変わって、道の両側が緑一色へと変わりました。町の中心からバスで15分で、店もめったにない草原しか見えない光景へと変わります。

勿論、私のホストファミリーも周りの家と同じように、広大な草原を持っていました。草原では、趣味のフットボールをしたり、バイクに乗ったりしていました。稲美町も自然の豊かなところですが、オーストラリアでは豊かな自然と生活が密接していて、良いところだなぁとつくづく思いました。

次に私が驚いたのは、日本人と考え方がとても異なっていることです。

日本人は集団を大事にする民族とよく言われます。誰も乱れることなく、みんなが同じことをしようとします。

オーストラリアの人は、個人を大切にしていました。やりたい時はやる。行きたいところに行く。眠たい時に寝る。何をする時でも、誰も何も言っていないでいました。

けれど、何も言わないというのは、本当に最初から最後まで何も言わないので、例えば、眠たいから寝たとすると、自分で起きるまで誰も起こしません。やりたいことをする。しかし、その行動に責任を持つ。日本とは全く違う考えでした。

最後に驚いたことは、オーストラリアの人がみんな親切で、フレンドリーなことでした。

オーストラリアに着いてたくさんの人に手を振りました。すると、ほとんど



ホストファミリーと一緒に

の人が笑顔で手を振り返してくれました。日本でこんなことをしたら変な目で見られるに違いありません。お店で買い物をした時も、ただ、ものの売買をするだけではなく、いろんなことを尋ねてきてくれました。私が英語がわからないとき、ゆっくりと何度も言ってくれました。ホストファミリーとお別れの時、「ここはあなたの故郷だから、いつでも戻ってきてね」と言ってくれました。初めに書いたように、自然が豊かだから、人の心も広く豊かで温かいんだろうなあと思いました。

オーストラリアでは、本当にたくさんのかんじとれたとこを思ひます。言葉が違っていたからこそ、普段気にしていない自然の奇麗さや人の温かさを身にしみて感じるこができたと思ひます。

こんな良い体験ができたのも、たくさんの方の支援があったからです。スワン市長さんにはたくさんお世話になったのに、プレゼントをくれたりもしました。こんな良い体験ができる事業がこれからもずっと続いていけばいいと思ひます。それから、この感謝の気持ちを別のこで恩返しできればいいと思ひます。

夢じゃないの？ 8日間！！

長 坂 裕 美

私たち8名は、中学生海外派遣事業でオーストラリアへ行ってきました。

会長さんやいろいろな人に「君たちは稲美町、兵庫県、日本の代表者でそれらを背負っているんだよ」と、いうことを言われ、私は大丈夫かなと不安でした。では、夢のようだった8日間のお話しに入ります。

今日からいよいよオーストラリア。かなりドキドキです。飛行機に乗りチャンギ空港に着き、次はパース空港です。次々に行くにつれ日本語がなくなり英語ばかりでドキドキしてきました。そして、パース空港に着き、外に出てみるとかなり寒いです。思っていたよりも寒くて、バカにできないな南半球！と思いました（寒さに対して）。

次の日は、兵庫文化交流センターへ行きました。そこは日本よりも日本らしくてビックリしました。そこから見える川は、驚くほど流域面積が広く、日本のは全く違うと、あっと驚かされました。

さあ、お次はバスの移動時間。運転手のピーターさんにお菓子をもらい、次に着いたのはファームステイ先の“ファーガソンファーム”です。

午後からはファーム内をぐるぐるしました。ポニー、やぎ、アヒル、エミュー、子牛などたくさんの動物がいました。その中でも、エミューにエサをあげられて感動でした。痛そうに見える口ばしも全く問題なしでした。あと、牛が放牧されているのをトラクターで回って見ました。その後、羊の毛刈を初めて見ました。思っていたより羊がおとなしく、毛が綺麗に刈れていました。この毛は手のオイルとしていいとか…。

お日様ももう暮れたら、みんなでキャンプファイヤー！！日本のものはできずだけど、オーストラリアのをいろいろ教えてもらえて良かったです。楽しさ120%でした。もう寝る時間も近づいたなあと空を見れば、とても綺麗な一面の星空でした。稲美町で見れない夜空でした。

次の日、午前中は昨日のトラクターのルートとかを歩いてみました。野生のカンガルーが見れる確立があったらしいけど…残念でした。もう気づけは午後、最後にみんなここで作られてるジャムを買い、お別れ。みんなホッペにキスしてもらってお別れ。やっぱりやさしくしてくれた人とはさみしいネ。

午後からは、スワン市役所へ！そこで、いよいよ一番不安だったホームステイ先のホストファミリーとのご対面です。あっ、私は古川さんと一緒でした。中には1人でホームステイする人もいました。ドキドキしてるともう市役所の方へ到着！中には人がたくさんいて、まずは市長さんとご対面！見てた写真のように首飾りを付けててちょっとビックリでした。そして、ホストファミリーとの対面。どの人なんだろうと？と思ってドキドキしてたのに、私と古川さんのホストファミリーは仕事らしく、Governor Stirling Senior High Schoolのピーターソン先生に送ってもらいました。行く途中にアイスを買ってもらっちゃいました。車内ではいろいろと聞かれ、私はあまり聞き取れずでした。



ファームではポニーに乗りました

そうしているうちにホストファミリー宅に着き、ホストファミリーと会いました。名前は TANYA と BRIANN。この2人がホストファミリーです。あと、犬のシーバ、猫、馬や羊、カンガルー等です。

着くとすぐ、TANYA に連れられ庭に行き、何がいるのかと思ったらカンガルーで、こんなに近くで初めて見ました。エサをやれてとてもかわいかったです！しかも、ちっちゃなサイズでした。時間も過ぎ、気付けばあんまり会話も進まず寝る時間でした。ホストファミリーさん宅には絶対子どもがいると思っていたのに子どもがいなくて、古川さんと2人で残念だねえとしゃべりました。

さあ、今日も朝が来て、今日はどうなるだろうと思って朝食の席へ行きました。そうすると、今日はビックリなぐらい朝から話をしました。会話をしてて私が理解しなければ紙に書いてくれたり、電子辞書で打ってくれたりして、会話は何とかできました。今日見る予定のフットボールの試合は見ずだけど、キングスパークとパース動物園へ連れて行ってもらいました。次の日も水族館に連れて行ってもらいすごく楽しかったです。あと、ショッピングも連れて行ってもらいました。あとで他の6人に聞くと、私たちのところが一番遊びに行っているそうです。

パースの学校に行ったり歓迎レセプションをしてくださったり、とても楽しかったです。

私たちが楽しい思いでこの1週間過ごせたのは、稲美町国際交流協会の方々、受入れてくださったパース市長様、市議会議員の方々、兵庫文化交流センターの小川所長を始め職員の方々、そして、私たちを受け入れてくださりいろいろくださったホストファミリーの方々、本当にありがとうございました。

オーストラリアは最高です！

森 田 亜 沙 美

出発の時、学校の先生やお母さんに見送られて、本当にオーストラリアに行くんだなぁと改めて思いました。バスの中は、みんなとてもテンションが高くて、話が止まりませんでした。やっと着いたと思ったら、とても寒くて、日本と全然違うと感じました。

ホテルまで送ってくださったのがピーターさんとシノさんでした。シノさんは、6年間オーストラリアに住んでいて、私たちに気候について教えてくださいました。2日目は、パース市内の兵庫文化交流センターの小川所長さんのところに行きました。オーストラリア以外にも兵庫県と交流している国はいくつかあると教えてもらいました。次に、バンバリー市にあるファームステイをすることに行きました。200キロも車で移動します。私たちに200キロはとても長い距離と思うけど、オーストラリアの人は、1日に長い距離を走るのは普通で、ガソリンがすぐになくなってしまおうと言っていました。バスから外を見ていると、羊や牛や馬がたくさんいてすごいなぁと思ったけど、だんだん羊とかがいるのが普通になってきました。オーストラリアに来た実感がなかったけど、風景でオーストラリアだなぁと思いました。2時間かけてファームステイのところに着きました。すると、ご飯を作ってくれていました。初めてのご飯で楽しみでした。それに、バスで移動してくれたピーターさんも一緒に食べました。英語が通じない時でも、調べたり何とかして伝えました。とてもおいしくて、楽しい時間でした。それから羊の毛刈りを見たり、牛の乳搾りを見たり、ポニーに乗ったりして本当に楽しいことの連続でした。

いよいよホームステイです。私は1人のところでした。初めは不安でいっぱいだったけど“せっかく来れたから頑張ろう！！”と思いました。

ホストファミリーと対面です。私の行ったところは、4歳の女の子がいました。お母さんもとても優しくそうでした。初めは緊張して笑っていることしかできなくて、友達と話をしながら会話をしていました。でも、家に帰ったら英語ばかりなんだなぁと思うと、また不安になりました。

帰る途中に買い物に行きました。全然話せなかったけど、家族の人がゆっくり話してくれました。だから、不安は少しなくなりました。ホストファミリーと初めての晩ご飯は、食べ方を教えてもらったりして楽しかったです。ご飯が終わったら、オリンピックを見ながらアイスを食べました。今日は緊張してちょっと疲れたけど、この緊張感も良い思い出になったと思います。

次の日はフットボールクラブの試合を見に行きました。とても迫力があってビックリしてびっくりだったけど、勝った時はみんなで喜んだりして楽しかったです。

5日目は最後だからたくさん話そうと思って辞書を持ち歩いていました。お昼にはバーベキューをしました。何かもうすぐこの家族と別れると思ったら、



キングスパークにて集合写真

とてもさみしくなりました。だから今日は、思いっきり楽しもうと思いました。本当にみんなが優しくて、本当の家族みたいな存在でした。今日はホストファミリーの家で食べる最後の晩ご飯です。そして、今日もアイスを食べました。

次の日の朝は、Governor Stirling Senior High School の体験入学をしました。日本語で「こんにちは」と言ってくれた男の子もいました。学校中を見学しました。その後、私たちがずっと練習してきた盆踊りの発表です。とても楽しそうでした。今日の晩ご飯は、スワン市主催の歓迎レセプションに行きました。ホストファミリーの人全員とご飯を食べたり、ここでも盆踊りをやりました。最後にははっぴをあげました。喜んでくれてうれしかったです。写真もたくさん撮りました。とっても楽しく過ごすことができました。

7日目は、ホストファミリーとお別れです。学校まで送ってもらいました。そして、手紙を渡しました。手紙は英語で間違ったりしたけど、プリクラとかも貼って結構カラフルにできました。手紙を喜んでくれてうれしかったです。本当に悲しくなって、何でが自然に泣いてしまいました。お別れはとてもさみしかったです。もう一度ホストファミリーのところに行きたいと思いました。その後、キングスパークに行きました。とても綺麗なところでした。ずっとオーストラリアにいたいと思いました。その後、買い物をしました。とてもかわい店がたくさん並んでいました。

もっと長い間、ホームステイがしたかったし、家族の人とも仲良くなれたから、大人になったら絶対に行きたいです。本当にこの事業に参加できて良かったです。



オーストラリアの人の優しさにふれて

古川 明日香

オーストラリアに着いた翌日、ファームステイをするためにファーガソンファームに行きました。その時は、まだみんなと一緒にだったので、オーストラリアに来た実感はありませんでした。昼食の時、隣に座っていたバスの運転手のピーターにいろいろと英語で質問されました。何を言っているかほとんどわからなかったので、私たちは逆に質問を多くするようにして会話しました。30分ぐらいだったのにすごく緊張して、このとき初めてオーストラリアに来た実感が沸きました。その夜、キャンプファイヤーをしました。日本の歌や踊りを教えたり、オーストラリアのダンスを教えてもらいました。楽しくて「このキャンプファイヤーが終わらなければいいのに」と何度も思いました。

翌日、ファームステイの間、優しく親切にしてくれたお母さんのヨーデルさんと別れるのがとてもさみしかったです。そして、私たち8人はホストファミリーが待っているところへ向かいました。

そのバスの中で、ホストファミリーの家族の紹介のプリントが配られました。どんな人だろうというワクワクする気持ちと、英語が通じなかったらというどうしよう不安でいっぱいでした。

到着すると、たくさんの方が待っていました。私たちのホストファミリーの人はどの人だろうと探していましたが、ホストの人は仕事の都合で迎えに来られなかったので、私と長坂裕美さんは、ピーターソン先生にホストの家まで送ってもらうことになりました。迎えに来ていた人たちは、どの人も優しそうなので安心しました。ホストの家に行く途中、ピーターソン先生と日本やオーストラリアの話をしました。頼れる人のいない英会話で、私はドキドキしすぎて聞かれていることとは別のことを何度も答え、その度、簡単でわかりやすい単語を並べて、何度も質問してくれました。さすが先生だなあと思いました。

家に着くと、そこは牧場のようで、馬と羊が何頭か見えました。そこにちょうど、お母さんのタンヤが帰ってきました。家の中では、犬のシーバとお父さんのブライアンが迎えてくれました。夕食の時、あまり会話が続き、これから大丈夫かなと心配になりました。

次の日、動物園へ行きました。動物園で2人の飼育員さんに出会いました。この人は、5年前に日本に滞在していたことがあって、日本語が話せていて、私はタンヤたちに感謝の気持ちと会えて良かったことを通訳してもらいました。帰ってからは、紙に書いたり、辞書を持ち出してきたり、いろいろ質問したり、されたりしました。だから、お互いのことが理解し始めました。ブライアンは子どもっぽい性格だということがわかったので、子どもと遊ぶために日本から



歓迎レセプションでホストファミリーと一緒に

持っていった紙風船と竹とんぼをして4人で遊びました。とても楽しかったので、またやりたいと思いました。疲れた後は、夕食でした。夕食はいつもブライアンが作ってくれていました。デザートはいつもタンヤが作ってくれていました。私たちは、少しでも2人の役に立ちたくて、できることをたくさん探して、洗い物や部屋の掃除をしました。とても喜んでくれたので、すごく嬉しかったです。

翌日、私たちはガバナースターリング高校へ行きました。オーストラリアの学校は、1・2時間目が授業で、その後の20分の休みの時間に、食堂でお菓子を食べます。すごくおいしくて、いいなあと思いました。その後、体育館で盆踊りを一緒に踊りました。すごく一生懸命踊ってくれたので嬉しかったです。その夜、レセプションがありました。優しい議員さんがいっぱいいて、たくさん友達になりました。ここでも盆踊りを踊りました。みんなで踊る時、私たちはブライアンを呼び、はっぴをプレゼントしました。とても喜んでいたので良かったです。家に帰った後、ブライアンに別れを言いました。ブライアンの仕事は朝4時30分からなので、私たちが起きた時にはもういないと言われました。涙が止まらず私たちは泣いてしまいました。それから部屋へ行き、荷物を片付けながら私たちは4時まで起きておくことにしましたが、寝てしまいました。

そして別れの日、タンヤと別れるのが悲しくて悲しくて、何度も泣いてしまいました。私は、また、ブライアンとタンヤに会いに行きたいです。

オーストラリアのパスでの思い出

大 前 美 幸

私がこの8日間で、オーストラリアで体験したことは数え切れないほどたくさんあり、その全ては、今でも頭に残っています。その中でも一番印象的だったことを書いて行きたいと思います。

まず1つめは、ファームステイのことです。ファームステイでは、牛の乳しぼりやポニーに乗ったこと、エミューにえさをあげたこと。ここでしか味わえないたくさんのお話をさせていただきました。

エミューは、見た目は怖いけど、えさをあげたらちゃんと食べてくれるし、さわっても怒らなかつたし、(毛はふさふさだった)なんか愛嬌があつてかわいかったです。また、お世話になった、ヨーゼフさん、ジョンさん、ニックには、夜にキャンプファイヤーをしていただいて、オーストラリアの歌や遊びを教えてくださいました。今でも鮮明に覚えています。

夜空いっぱいにあふれている星たちに感動し、南半球でしか見られない南十字星を見つけ、うれしく、心が躍りました。運転手のピーターさんが、星のことを教えてくださり、写真はフラッシュをあんまりたかないほうがいいとか、細かいことまで教えていただきました。

行き帰りの2時間の移動は正直言ってきつかつたし、疲れました。だけど、行きしにはその分他の所に行きたい気持ちはあつたけど、帰りには、ファームをまだ続けたい気持ちが行きしの気持ちに比べて断然多かつたと私は思います。

2つめは、ホストファミリーのことです。私のホストファミリーは、その家のデイビーと犬のティンカーベルのいる家でした。日本の家は上に大きいけど、オーストラリアの家は、土地が多いせいか横に大きい平屋の家ばかりでした(たまに2階建てを見るけど・・・)。もちろんステイ先も平屋の大きい家でした。周りにはスワン湖があり、眺めが最高で、庭から目と鼻の先でした。

スワン湖のほとりの家はボートかクルザーを一台は持っている金持ちの家で、日本では考えられないことばかりでいつも驚き、驚き、驚きで気が狂つてしまふそうでした。

街には、大きなビルやスーパーマーケットがあるけど、いったん住宅街に入れば家ばかりで、あるのは電話ボックスやバス停で、歩いていけば時たま小さなスーパーマーケットがあるだけです。

コンビニは全然なく、代わりにあるのはガソリンスタンドの店です。24時間営業で、オーストラリアのコンビニといえるぐらいどこもかしこもあります。だけど、そこは、実に品物が高い。スーパーマーケットで売っているコカ・コーラは1ドル45セント弱(約120円)なのに、ガソリンスタンドは2ドル35セント(約200円)。高すぎるので、私的に勧めはできません・・・。

だから、デイビーと買い物に行くときは、いつもスーパーマーケットで買い物を済ませます(ウールワースやターゲットなど)。食料品だけが売っている日本とは違い、日用品すべてそこに売っています。



ファームではエミューにエサをあげました

私たちが行ったときは、冬から春にかけての時期だったから、セールという字がそこらかしこにあり、実に魅力的でした！！服は安いし、お菓子はもともと安いし、アクセサリーとかの雑貨類は30%引きとかで、もー、買い物し放題でした。他のみんなは買い物とかあんまりしなかったみたいだけど、私たちは、暇があれば、買い物か散歩でした。そこでは、たくさんの人と話でき英語の練習にも役立ちとてもうれしかったです。

デイビーは、学校の先生なので、間違った英語の文章を言ってもすぐに直してくれて、英語力が少し、上がった感じがしました。

楽しく充実した8日間でしたが、8日というのは、とても短く感じられたし、ホストファミリーのことが分かったのは、オーストラリアに着いてからだったので、稲美町にいる時に教えてくれたらとても助かりました(私のように家族のいないところはちょっと悲しいから、家族のいるところに次の年の人は行ってもらいたいです)。

しかし、あんまり英語ができなく、ただ行きたいという思いだけで応募した私だけど、気合と根性があれば英語は通じるし、思いが通じることがここパースで分かりました。しかも、稲美町のおかげで、日本以外の国に知っている人ができ、とても光栄に思います。

このような体験をしたことで、わたしの夢は達成でき、それと同時に、オーストラリアのパースにもう一度行きたい、そして、もう一度ホームステイがしたいという大きな夢ができました。貴重な体験ができ、大切な思い出ができてとてもうれしいです。この場を借りて、稲美町の海外事業中学生派遣の役員の方々、日本旅行の方々、オーストラリアでお世話になったの方々、本当にありがとうございました。



多くの新たな発見ができた海外派遣

村田 欣吾

今回の海外派遣では、とても貴重な体験をさせて頂きました。ファームステイとホームステイ。いずれも僕には初めてのことでした。新たに知ったこともたくさんありました。

19日、パースにある兵庫文化交流センターの小川所長表敬訪問では、小川所長の話から、兵庫県とパースの関係を知ることができました。小川所長の話によると、兵庫県とパースは1981年に姉妹協定を結びました。パースで採れる鉄鉱石を輸入するためだそうです。そして、10年後の1991年、センターが建設されました。他には、西オーストラリア州で日本語を勉強している人は2000万人中30万人。60人に1人の割合だそうです。結構いるんだなぁと思いました。

ファームへの移動中にも、様々なことを知りました。右ハンドルの左側通行、交差点には左折専用の道があったり、標識に100と書いてある道があったり、意外にも日本と同じだったところと日本とは全然違うものがあり、驚きました。

ファームでは、エミューにエサをあげたり、羊の毛刈りを見たり、ポニーに乗ったり、牛の乳搾りをしました。羊の毛刈りは一度見たことがあり、牛の乳搾りも小学校の時にしたことがあったので、これら以外のことが初めての経験でした。夜には、キャンプファイヤーをしました。星空はとても綺麗でした。僕たちの宿舎は、少し高いところにあったので、昼間の雨が降った後にはインド洋が見えました。

ファームステイが終了し、パースへ向かうバスの中で、ホストファミリーの発表がされました。事前研修の時から2人1組と聞かされていたが、1人の人がいると聞いた時、少し期待をしました。しかし、2人でした。

迎えに来ていたのは、お母さんと次男でした。早速、次男といろいろ話をしました。身長、好きな教科、嫌いな教科、好きなスポーツ、嫌いなスポーツについて話しました。僕は、英語に関しては筆記より聞き取りに自信があったので、この始めの会話は難なくこなせました。

家へ向かう途中、小さな橋を渡りました。しかし、そこにあった川はスワン川だったようです。スワン川は、一部では湖と間違えるくらい大きいところがあるけど、こんなに細いところもあるんだなぁと思いました。

その後は、カンガルーを見ました。ファームステイで見ることのできなかったカンガルーを、ホームステイ初日に見ることができたので嬉しかったです。家ではチェスを何度かしました。1番初めに「このルールを知ってる？」と聞かれた変な駒の動き方をするルールを僕たちは知らなかったもので、ややこしいルール抜きでチェスをしました。そのルールを帰国後調べてみると、「キャスリング」という上級者でも扱いにくい複雑なルールでした。

僕たちは一度、将棋を教えようと試みました。駒の動きはわかったみたいだ



歓迎レセプションでホストファミリーと

ったけど、上手に呼べない駒がありました。龍王と龍馬です。「リュウ」ということが難しいらしく、何度言っても「ドウ」になってしまいます。将棋はチェスとは違い、取った駒を盤に戻すことができます。そこも難しかったらしく、できそうになかったので将棋を教えるのを諦めました。

オーストラリアンフットボールの試合も見に行きました。フットボールとは多少ルールが違うようでした。観客の熱狂ぶりは、日本でいう阪神ファンのようでした。オーストラリアの人がオーストラリアンフットボール好きというのが、見ただけでわかりました。

日常会話は、難なくこなせました。しかし、何かひとつのことについて深く話そうとした時に、僕が何度も聞き返したり、困惑の表情を浮かべていると、それに気付いてその会話を切上げてくれたので助かりました。

今回の海外派遣で僕は、多くのことを学びました。日本との文化の違いについては、違うところは似ても似つかない、同じところは気が付かないくらい同じところがありました。それらを発見するごとに、少し嬉しくなりました。英語はとても勉強になりました。特に驚いたのは、学校で習うのとは全然違うことです。例にあげるとすれば疑問文です。学校では、助動詞やbe動詞を始めに持ってこなくてはいけないけど、オーストラリアでは、肯定文の構成で文の最後を上げるだけで疑問文になるのです。新たな発見をする度に、何だか楽しくなりました。

近い将来、とても親切にしてくれたあの家族をもう一度訪ねたいと思います。今年の夏休みは、今までで一番良い夏休みになりました。

今だから言えるエピソード

- ホストファミリーの女の子と一緒にランポリンをやったけど、4才だったからとても元気で、ちょっと休みたくて休んだら、「ダメ！」と言われてしまいました。
- ファームにて…。1番楽しみにしていたポニーに乗る時、足が開かなくて、支えてもらいながら乗った。これで、馬は乗れない…。と確信した。ショックだった。
- 英語が理解できない時は、とにかく「Yes」と言ったら、なんとなくコミュニケーションがとれた。
- 甘いものには自信があって、夕食会でケーキをいっぱい取ったら、罰があたってしまった。(甘すぎ～)
- 夜型の自分と、カンガルーが少し似ているように思った。(昼間ごろごろしているところ)
- 空港で「お菓子やアメを持っていますか？」って聞かれて「NO！」と言ってしまいました。大量に持ってたのに…。
- 飛行機内で見知らぬ日本人に「Tim Tam」を2袋もらいました。怪しいので添乗員のカバさんに、どうすればいいのか聞こうと思って探しましたが、みんな見つけれませんでした。本当はすぐ近くにいたんだけど。結局、それはカバさんが空港で交渉してオーストラリアに持ち込んで食べました。
- 向こうは冬なのに短パンがけっこういました。
- ホームステイ2日目、ホストファミリーが家から車で約1時間かかる、フリーマントルという所へ連れていってくれました。きれいな海があって、多くの店が集まっているとてもいい所でした。海があるので、とても寒かったのですが、オーストラリアの人はTシャツやキャミソールで平気な顔をしているのにとっても驚きました。私のホストファミリーも冷たいコンクリートの上を裸足で歩いたりしていました。そんな人たちから見ると、私はとても着込んでいるように見えたらしく、とても体調を気にしてくれました。体質は違っているけど、心遣いは一緒なんだなぁと思いました。

- 日本に帰ってきて一番ありがたかったのはトイレでした。オーストラリアのトイレは便座がとっても冷たく、おしりが、もう耐えられなかったことです。ホテルもファームも、ホームステイの家も…。日本人でよかったなあとつくづく思いました。
- ホストファミリーの所に子どもがいなくて、1日目の晩2人で「なんで子供いないの?」「子供ほしいよ!!」と叫んでました。
- ホストファミリーの人に「May I borrow your shower?」と言ったら笑われて、シャワーを持って行って使うのかとかなり笑われました。
- 関西国際空港で、筆箱に入れっぱなしで抜くのを忘れていたハサミを没収されてしまいました。
- ファームステイでは、自分達の部屋を暖めるために、暖炉に加え暖房も使って暖めていました。
- ホームステイで、父親が科学者だと聞いたのでカッコいい姿を想像したけど、本物を見たとき、一瞬疑ってしまいました。
- ホストファミリーの長男と、その彼女がソファーで堂々とイチャついているのを見て、恥ずかしくなりました。
- 私が今だから言えることは、このホストファミリーの家にホームステイができて良かったということです。ホームステイというと、同じ年くらいの子どもがいる家にお世話になり、子どもの友達になったりすることだと思っていたので、初めて二人と出会った時は少しがっかりしました。でもこのホストファミリーは、仕事を持ちながら、私達をホームステイさせてくれて、娘のようにかわいがってくれました。その優しさの中で生活するうちに、二人の家にホームステイさせてもらって、本当に良かったと思えてきました。言葉が違って、生活習慣が違って、心は通じると二人に教えてもらいました。

